

# 第3回ビジネスと生物多様性チャレンジ会合 革新的資金メカニズム議論 グリーン開発メカニズム議論

2010.3.26

WWFジャパン

自然保護室 生物多様性条約担当

栗野 美佳子





地球の生命力を  
高めよう 2010



# CBDでの議論経緯

- 2005年1月にロンドンで「ビジネスと2010年目標チャレンジ会議」開催
  - イギリス政府とブラジル政府がホスト国
  - 出席者約60名(企業・業界団体・NGO)
  - 出席者は専門性と経験に基づき主催者が選定(日本人参加者無し)
  - 民間セクターの参画可能性やその方法についてブレインストーミング





地球の生命力を  
高めよう 2010



# CBDでの議論経緯

- 2005年11月にサンパウロで「第2回ビジネスと2010年チャレンジ会合」開催
  - 第1回目の議論を更に進めるのが目的
  - イギリス政府とブラジル政府が再びホスト
  - 出席者約100名 主催者が選定(日本人はゼロ)
  - セクター別作業部会で議論
    - 生物多様性に直接影響を与えている産業
    - サプライチェーンを通じて影響を与えている産業
    - ABSに関係する産業
    - 金融セクター





地球の生命力を  
高めよう 2010



# CBDでの議論経緯

- **2006年3月 第8回締約国会議(ブラジル)**
  - 民間セクターの参画について決議を採択
  - チャレンジ会合の議論を引き継ぐもの
  - 第9回締約国会議でビジネスの参画を促進するための方策を更に議論することを決定
- **2008年5月 第9回締約国会議(ドイツ)**
  - ドイツ政府が「B&Bイニシアティブ創設」
  - オランダ政府が「第3回ビジネスと2010生物多様性チャレンジ会合」開催支援を表明





地球の生命力を  
高めよう 2010

# 第3回ビジネスチャレンジ会合

5

- **2009年11月ジャカルタで開催**
  - オランダ政府がホストだが、インドネシアで開催
  - 出席者200名(申込制) 日本からも官民参加
  - 企業参画を進めるための課題・成功事例・COP10への提言 を議論する
  - セクター別議論とビジネスに組み込むための具体論
  - 最後にジャカルタ宣言を採択





# セクター別議論

- **特定産業に絞った個別論**
  - 旅行業界
  - 高級品 / ファッション業界
  - エネルギー産業
  - 金融
- **事業の影響議論ではなく、どう貢献できるかの議論**





地球の生命力を  
高めよう 2010



# 組み込むための議論

- リスクマネジメントとして
- 影響と依存度の測定・評価・報告
- 生物多様性ビジネスの構築
- マネジメントツール
  - オフセット
  - 基準・認証制度
  - 手法・アプリケーション ex. ハンドブック
  - 協働活動 ex. B&Bイニシアティブ





# ジャカルタ宣言

## ● 14項目の提言

- 企業の自主的行動と、市場指向型施策(グリーン開発メカニズムや認証制度)で推進
- ノーネットロス・ネットポジティブインパクトの概念で努力評価
- 生物多様性のデータ改善が必要
- COP10で「2020ビジネスと生物多様性課題を推進するための戦略」の検討を
- ビジネスと生物多様性グローバルフォーラムをCOP11までに開催





地球の生命力を  
高めよう 2010



# グリーン開発メカニズムとは

- 2009年2月にオランダ政府のバックアップで開始した議論
- グローバルな資金メカニズムの可能性を探ることが目的
- UNEP(国連環境計画)・CBD事務局・IUCN・IFC(国際金融公社)・オランダ政府・イギリス政府が当初の運営委員 現在はIFC・イギリス政府は外れ、OECDが参画





# 議論の推移

- **2009年2月:最初の専門家会合(オランダ)**
  - 出席者40名弱(政府・企業・NGO・研究者)
  - 4つの提案について議論
    - 取引可能な保全義務(キャップ&トレード)
    - オフセット
    - フットプリント課税
    - 輸入コモディティのグリーン化(認証制度論)





地球の生命力を  
高めよう 2010



# 議論の推移

- 2009年11月 ジャカルタ会合のサイドイベントで「GDM2010イニシアティブ」として概略紹介
  - 民間セクターからの資金を呼び込むもの
  - 生物多様性保全を 利益の出る(profitable)'ものとする
  - ファンドではなく、検証(validation)メカニズム
  - COP10ではGDMそのものではなく、補完的メカニズムの必要性に合意を取り付けたい

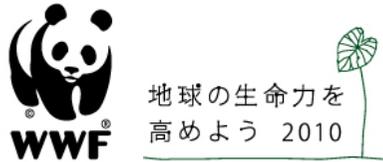




# 議論の推移

- 2010年1月 革新的資金メカニズム会合(ボン)で議論
  - TEEBと並びキー・イニシアティブとして紹介
  - 出席者の大半は先進国のため、資金を出す側の議論がメイン
  - 4つの手法の内、フットプリント課税に関心
  - キャップ&トレードは当面考えない
  - 国際的オフセットは目指さない
  - 取引や市場メカニズム型はまだ無理





# 議論の推移

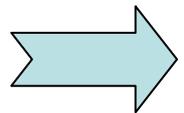
- 2010年2月: 第2回専門家会合(バリ)
  - 途上国側の意見聴取
  - 出席者30名弱 企業参加者は殆ど無し
  - バリで同時期開催のUNEP会合に提言として発表
  - 「グリーン」と「開発」の両立を求める





# 現在の提言

- GDMに対する民間セクターの需要を探る
- GDMの役割はプロジェクトが生物多様性と開発にどう役立つかを見極め検証するスキームの創設 GDMスタンダード
- GDM認証プロジェクトに資金が流れる市場構造については更なる議論が必要



WBCSDとの意見交換・5月のCBD会合での検討

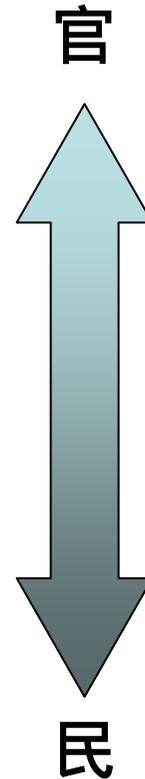




地球の生命力を  
高めよう 2010

# 革新的資金メカニズムとは

- COP9で政策研究を進めるよう決議
- 6つの手法が候補
  - 財政改革
  - 開発援助
  - 気候変動用資金メカニズムとのシナジー
  - 生態系サービスへの支払い(PES)
  - オフセット
  - グリーン市場





地球の生命力を  
高めよう 2010



# 議論の状況

- 「直接的資金源」とは限らない(保全コストを下げる間接的貢献)
- 「革新的」に立ちはだかる国家主権(新たな課税措置導入は嫌がられる)
- WTOとの軋轢(非関税障壁リスク)

出席者は政府関係者が主体のため、官が取り得る手法に議論が偏りがち





地球の生命力を  
高めよう 2010



# 民間が主体となる手法

## • オフセット

- 国際的にやり取りできる仕組みにすべきでない
- 国内制度推進のための国際的なサポートは必要
  - 国際的スタンダードの設定
  - 場所設定や地域計画作りのツール提供
  - 経験共有
  - 検証・監査手続きの開発
  - 技術的政策的アドバイス





地球の生命力を  
高めよう 2010



# 民間が主体となる手法

- グリーン市場
  - グリーンプロダクツは資金を「徴収」する対象ではない
  - グリーン市場拡大が保全に貢献する
  - 市場拡大のための政策が必要
    - 「グリーン」の定義
    - 認証制度間の調和
    - 中小企業や途上国事業者向けインキュベーター資金
    - 政府のグリーン調達方針強化
  - 企業自身もグリーン調達投融資方針策定でグリーン市場拡大に貢献する

